

科目名		産業精神保健学演習	
科目責任者	江口 尚	(産業精神保健学 教授)	
担当者	井上 彰臣	(IR推進センター 准教授)	
担当者	真船 浩介	(産業精神保健学 講師)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>抄読会参加、研究会での発表、議論等を通じて、産業精神保健の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題を理解し、それを実務に活かせる応用力を高める。同時に、産業保健スタッフチームのリーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響、対応を踏まえた精神保健活動を計画し、実践する力を身につける。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産業精神保健の歴史を知り、それをもとにその現状と課題を論じることができる。</li> <li>2) 産業精神保健に係る事業者責任、労災認定の現状を説明できる。</li> <li>3) 産業精神保健に係る主な概念、理論をもとにした議論ができる。</li> <li>4) 産業精神保健の関連領域(学問)について概説できる。</li> <li>5) 産業精神保健に関する事業場外機関の種類、特徴、役割について議論できる。</li> <li>6) 産業精神保健活動に関する計画立案のあり方について議論できる。</li> <li>7) 労働者の精神健康度、職業性ストレスを評価する代表的な方法を詳述できる。</li> <li>8) 労働者の精神健康度、職業性ストレスの調査結果の主な分析法について論じることができる。</li> <li>9) 産業精神保健に係る職場環境の評価の具体的な進め方について議論できる。</li> <li>10) 産業精神保健に係る職場環境について、評価を踏まえた改善手順について議論できる。</li> <li>11) 精神障害を有する労働者の職場復帰に関して、問題点と課題を主な病態別に議論できる。</li> <li>12) 精神障害を有する労働者の職場復帰支援の方法論を職場の諸制度と関連づけて議論できる。</li> <li>13) 産業精神保健における労働者教育について、カリキュラムと評価のあり方を議論できる。</li> <li>14) 産業精神保健における管理監督者教育について、カリキュラムと評価のあり方を説明できる。</li> <li>15) 労働者の自殺対策について、過去の知見と職場という特性を踏まえた議論ができる。</li> </ol>			
● 評価方法	演習中の討議への参加度30%、発表内容20%、課題レポート50%で総合評価する。		
● 参考文献	「チームで進める職場のメンタルヘルス」(診断と治療社)、「産業保健スタッフのための実践! 「誰でもリーダーシップ」」(誠信書房)		

● 授業内容

回	項目	担当教員
奇数回	上記の目標に沿って、各主題につき、代表的な論文、知見を取り上げ、解説や議論を通じて、理解を深めさせる。	江口 井上 真船
偶数回	精神健康度、職業性ストレスの評価法、職場環境の評価と改善について、実際の事例を使って、系統的、実践的な指導を行う。	江口 井上 真船